

促成栽培イチゴにおけるハダニ類の天敵 チリカブリダニの利用方法

生産環境研究所

1 背景、目的

近年、安全な農産物を求める声が高まる中、イチゴ生産においても、今までのような化学農薬だけに頼った害虫の防除方法を見直すことが重要となっています。

そこで、促成栽培イチゴにおいて、害虫のハダニ類を防除するため、その捕食性天敵であるチリカブリダニの有効な利用方法を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

1) ハダニ類の被害は、チリカブリダニを2月上旬から2～3回、1回につき2,000頭/10a放飼しても、十分に抑えることはできません。

2) ハダニ類の被害は、チリカブリダニを10月下旬、11月下旬、2月上旬に、1回につき2,000頭/10a放飼すると、4月まで低く抑えることができます。

また、4月以降の被害を抑えるためには、2月下旬～3月上旬に放飼することが必要となります。

3) 以上の結果をもとに、促成栽培イチゴにおけるチリカブリダニ利用マニュアルを作りました。その中でチリカブリダニ利用方法は、「10月下旬～11月上旬、11月下旬～12月下旬、1月下旬～2月上旬および2月下旬～3月上旬に、1回につき10a当たり2,000頭の放飼」が有効です。

3 主要なデータなど

表1 現地圃場でのハダニ類に対する防除実績（筑後市）

試験圃場	チリカブリダニの放飼（○）					調査期間中の殺ダニ剤散布
	10下	11下	2上	2下	3上	
A 農家圃場 1	-	-	○	○	○	3月中旬
B 農家圃場 1	-	-	○	○	-	10月下旬、3月下旬
B 農家圃場 2	○	○	○	-	-	なし（不要）
C 農家圃場 1	○	○	○	-	-	なし（不要）

表2 チリカブリダニの放飼圃場におけるハダニ類による被害の推移

試験圃場	ハダニ類による被害（発生複葉率）							クモの巣状態株の発生(4月中旬)
	10下	11下	12下	1下	2下	3下	4中	
A 農家圃場 1	-	-	-	11.3	23.8	27.5	-	圃場の約 20 %
B 農家圃場 1	0.0	0.0	14.0	22.5	16.3	37.5	50.0	" 約 40 %
B 農家圃場 2	0.0	0.0	0.0	1.3	2.5	3.8	26.3	" 約 3 %
C 農家圃場 1	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	1.3	" 0 %

注) 多発した株では、ハダニ類が吐く糸によって、クモの巣を張った様な状態になる。

表3 チリカブリダニの有効な利用方法（マニュアルより抜粋）

	9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		4月		5月			
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
定植				マルチ張り	ビニル被覆	ミツバチ搬入														収穫終了

注) はチリカブリダニの放飼を示し、1回につき10 a 当たり2,000頭放飼。